

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
北海道芸術デザイン専門学校		昭和51年4月1日		根上 和也		〒 001-0024 (住所) 北海道札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 美専学園		昭和62年12月4日		増田 涼平		〒 001-0024 (住所) 北海道札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777			
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	専門課程		産業デザイン学科 (グラフィックデザイン専攻)		平成 7(1995)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	産業デザイン学科(グラフィックデザイン専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し、実務的な職業教育を施す。								
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)	【資格・検定】ビジネス能力検定・ジョブパス、ADEC色彩士検定、Illustratorクリエイター能力認定試験、Photoshopクリエイター能力認定試験 【学修成果】JAGDA国際学生ポスターアワード2025入選、JFN学生ラジオCMコンテスト2025 北海道・東北ブロック賞、第57回毎日DAS 学生デザイン賞 大学生の部“金の卵賞”グラフィック部門 入選								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		(1800 単位時間) 120 単位	(270 単位時間) 18 単位	(1530 単位時間) 102 単位	(0 単位時間) 0 単位	(0 単位時間) 0 単位	(0 単位時間) 0 単位
		生徒総定員		生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率		
320 人の内		83 人		0 人	0 %	4 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		37 人						
	■就職希望者数(D)		34 人						
	■就職者数(E)		34 人						
	■地元就職者数(F)		30 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		88 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		92 %						
	■進学者数		0 人						
	■その他		3 人						
	(令和 7 年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和7年度卒業生) 広告、印刷、Web、TV・ラジオ放送局、インハウス 等									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無								
当該学科のホームページURL	https://bisen-g.ac.jp/course/commercial/graphic/								
企業等と連携した実習等の実施状況	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		(1800 単位時間)						
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		(0 単位時間)					
		うち企業等と連携した演習の授業時数		(195 単位時間)					
		うち必修授業時数		(1800 単位時間)					
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		(0 単位時間)					
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		(195 単位時間)					
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		(0 単位時間)					
	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数		120 単位						
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位					
		うち企業等と連携した演習の授業時数		13 単位					
		うち必修授業時数		120 単位					
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位					
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		13 単位					
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを遡算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人		
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人		
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人		
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人		
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人		
	計						3 人		
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数						3 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校では、教育課程編成委員会を、企業等との連携を通じて、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために必要な教育課程の編成及び見直しを行うことを目的として設置している。

各学科において教育課程の原案を作成し、教育課程編成委員会に諮ることで、企業・業界団体等の視点から実践的な知識・技術及び最新の業界動向等に関する意見・提言を受ける。委員会での審議内容については、学科長会議及び教務会議等において検討し、授業科目、授業内容、授業方法等の改善に反映する。教育課程については、校長が最終的に決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
佐野 公康	株式会社プリプレス・センター 顧問	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	③
佐藤 正人	北海道イラストレーターズクラブα 名誉会長	同上	①
堀川 敦史	株式会社インフィニットループ 執行役員	同上	③
大内 利章	(株)自然農園 代表取締役社長	同上	③
伊藤 千織	一般社団法人 北海道デザイン協議会 会長	同上	①
薄木 健友	(株)花佳 代表取締役	同上	③
赤坂 真一郎	(株)アカサカシンイチロウアトリエ 代表取締役	同上	③
鈴木 理	(株)鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取締役	同上	③
根上 和也	北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)	同上	—
飯塚 哉子	同 教務部長・建築デザイン学科長	同上	—
高畑 文一	同 産業デザイン学科長	同上	—
高橋 美絵	同 マルチメディアデザイン学科長	同上	—
桂 充子	同 環境デザイン学科長	同上	—
稲葉 未紗	キャリアサポート室 室長	同上	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催頻度:年2回、開催時期:8月および2月

(開催日時(実績))

第1回 令和7年8月28日 16:00～18:00

第2回 令和8年2月2日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・第1回教育課程編成委員会で出された意見や助言を踏まえ、改善点があれば、可能なものは後期の授業から、その他については次年度の教育課程編成に際して反映させ、第2回教育課程編成委員会で新年度教育課程案として提案している。

・企業側は、より幅広いスキルやデザイン思考を持つ人材を求めているとの助言により、UIデザインやデザインスキル(レイアウト以外にもプランニングなど)の授業内容を強化。企業が求める多様化と、担任授業ならびに就職課と連携し学生のキャリアプランニング支援のを強化した。ゲーム会社ではUIデザインが得意な学生の需要が高いとの助言から今年度のカリキュラムでUIデザインを行える授業の内容を強化した。また、今後AIがクリエイティブ業界においてどのような位置づけで企業に関わっていくのが今後の課題になる。授業内でも業界の動向を探りご助言頂いた情報を授業内で反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。

・職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。

・担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、教務部へ提出する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

授業内容及び方法については、連携企業の実務担当者から業界動向や実務上必要となる技術・知識に関する助言を受け、実践的な課題を取り入れたカリキュラム編成を実施している。演習等の実施にあたっては、企業等より実務経験を有する講師を派遣し、実際の業務を想定した演習課題、制作指導、技術指導等を行うとともに、現場で必要となるコミュニケーション能力、課題解決能力及び職業倫理について指導を行っている。また、学生の学修成果の評価については、企業等の担当者が演習成果物、課題達成度、授業態度、実践力等を総合的に評価し、学校教員と協議のうえ成績評価へ反映している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
応用技術演習 (印刷・レイアウト演習)	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	小冊子の企画から実制作を通して、Adobe IllustratorとPhotoshopを使用したデジタル入稿から校正・製本までのプロセスの理解と必要な情報を視覚的に分かりやすくレイアウトする紙面構成のトレーニングを目的として演習を行う。さらに、実務とワークフローの理解のために企業訪問・工場見学を実施し製造工程の理解を深めさせる。	白馬堂印刷株式会社
専門技術演習Ⅰ (アートディレクション)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	解説と研究でアートディレクション業務を学び、実習課題の制作を通してアートディレクションの表層を体験し、プロジェクトを客観視しながらディレクションの重要性を経験し学ぶ。アートディレクションの基礎知識の習得をしながら表現力を育て、型にはまらないアイデアを基軸にしたデザイン思考を伴うアートディレクション能力を培う。	公益社団法人 日本グラフィック デザイン協会 北海道道央地区
基礎技術演習 (基礎デザインⅠ)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	造形要素の特性を把握し、造形秩序と配色の調和について学ぶ。文字の歴史や基礎知識、書体(フォント)の種類とイメージを広く学びながらリサーチ力や応用力を身につける。また、課題制作を通じて制作物の目的やターゲット層を意識しながら、クライアントワークに挑戦する。	有限会社 ホライズン
総合技術演習 (DTP演習Ⅲ)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	制作演習を通じてAdobe InDesignの基礎操作を学びながら、マージンや文字組に配慮したレイアウト力を強化する。企画力の向上も図り、現場に即した制作のワークフローを学びながら、InDesignによる入稿方法を学ぶ。また、エディトリアルデザインにおける企画立案・取材・協働作業・校正の技術を修得しながらページを意識したデザインの完成度を高め課題制作を行う。	札幌アート ディレクターズクラブ
総合技術演習 (広告デザイン演習Ⅱ)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	コピーライティング・タイポグラフィ・プランニング等、広告制作において幅広い視野をもち、戦略的かつ効果的な広告企画を展開できる実践方法を学ぶ。課題制作を通じてビジュアル撮影やコピーワークも含めた総合的な広告制作のノウハウとテクニックを身に付け、一つの着地点に対して多面的なアプローチができる習慣を身に付けさせる。	有限会社 クォーターパック クリエイティブ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 (教員の研修等の基本方針) 本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。 ・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。 ・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：JAGDA北海道 POSTER EXHIBITION2025 デザイントークショー	連携企業等：JAGDA北海道地域	
期間：令和7年8月19日	対象：業界関係者、教員、学生	
内容：ポスターのコンセプトを参加デザイナーから聞こう		
研修名：札幌ADCクリエイターズミーティング2025	連携企業等：札幌アートディレクターズクラブ	
期間：令和7年8月22日	対象：業界関係者、教員、学生	
内容：クリエイターとの情報交換ならびにトークイベント		
研修名：what is ZINE	連携企業等：札幌市図書・情報館 札幌市文化交流センター-SCARTS	
期間：令和7年10月5日	対象：業界関係者、学生	
内容：グラフィックデザイナー菊地和広氏「ZINEの魅力を知る」		
研修名：「MY WORK 33」出版トークショー	連携企業等：北海道イラストレーターズクラブアルファ	
期間：令和7年11月15日	対象：業界関係者、学生	
内容：作家会員の作品トークイベント		
研修名：モリサワ文字セミナー	連携企業等：株式会社モリサワ	
期間：令和8年1月20日	対象：教員、学生	
内容：フォントの扱いや活用方法などを学ぶ		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：令和7年度第2回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等：北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会	
期間：令和7年12月18日	対象：教職員	
内容：青山 千景氏「今すぐ実践したくなる！コミュニケーションの極意を伝授」		
研修名：『発達障がい特性のある青年期の支援について	連携企業等：札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる	
期間：令和8年2月20日	対象：教職員	
内容：～発達障がい学生の特性理解や援助要請にいたるサポートを中心に～』		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：「ボツ案から学ぶロゴデザイン」講座	連携企業等：株式会社cosmos	
期間：令和8年8月20日	対象：教員、学生	
内容：特別講義およびワークショップ		
研修名：JAGDA北海道 POSTER EXHIBITION2026 デザイントークショー	連携企業等：JAGDA北海道地域	
期間：令和8年8月21日	対象：業界関係者、教員、学生	
内容：ポスターのコンセプトを参加デザイナーから聞こう		
研修名：札幌ADCクリエイターズミーティング2026	連携企業等：札幌アートディレクターズクラブ	
期間：令和8年9月4日	対象：業界関係者、教員、学生	
内容：クリエイターとの情報交換ならびにトークイベント		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：令和8年度第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等：北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会	
期間：令和8年8月4日	対象：教職員	
内容：自主自律の気概 ～北海道スタンダードを生み出す～		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確かつ具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する企業等との信頼関係を深めることを基本方針としている。

(2) 「専門学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像など学科の特性が明確になっているか 各学科の教育目標・育成人材像は業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	目標等に沿った学科運営方針が明確になっているか 教育活動に関する情報公開が適切になされているか
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が示されているか 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 資格取得の指導体制はカリキュラムの中で体系的に位置づけられているか 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる指導体制を確保しているか
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか 退学率の低減が図られているか
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
(6) 教育環境	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行なわれているか 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
(8) 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 財務について会計監査が適正に行われているか
(9) 法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11) 国際交流	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

昨年度は4名中3名の委員を、今年度は残る1名を入れ替え、新たな視点・それぞれの立ち位置から、本校が行った学校評価(自己評価)結果及び今後の改善に向けての方策等について意見をいただいた。今後も、歴史と伝統のある道内有数の専門学校として、不易と流行を踏まえながら、時代や業界が求める人材の育成のため教育課程や学生指導について改善を図り、また職業実践専門課程校としての責務を果たすべく、連携する企業との情報共有の充実や教育資源の積極的な活用に努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
孫田 敏	(有)アークス 代表取締役	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業関係者
長尾 梓	宮の沢明日佳病院 看護部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	企業関係者
篠宮 利恵子	デザイナー	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	地域有識者
金井 正治	陶芸工房 アトリエ陶 代表取締役	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	卒業生・企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

公表時期: 令和8年6月中旬

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路
(3) 教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習等の取組情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置の内容等
(8) 学校の財務	事業報告書、収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ・派遣状況
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校)

公表時期: 令和8年6月中旬

授業科目等の概要

(文化教養分野専門課程 産業デザイン学科(グラフィックデザイン専攻))令和8年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			基礎造形Ⅰ	検定試験公式テキストを使用し色彩理論の基礎を学ぶ。基礎的な平面構成課題を通して構成力・イメージの抽象表現力・実用的な色彩感覚等を養う。	1 前期	45	3		○		○			○	
2	○			コンセプトメイキング	テクニックを習得する前に身に付けておくべきデザインの本質的な価値や機能を学び、クリエイティビティの幅を広げるための多角的な視点を得る。	1 前期	45	3		○		○			○	
3	○			デッサン	最も重要な基本的技術であるデッサン力を学ぶ。繰り返しデッサンを描くことでグラフィックデザイナーに必要な「観察力」を養う。決められた時間でモチーフ、モデルを観察して素描するクロッキーを通じて、物事を観察し、理解し、言語化できることを目指す。	1 前期	45	3		○		○			○	
4	○			ビジュアル表現	各種画材の基礎的な知識と使い方を学び、その中からそれぞれの画材の持つ印象を理解し、イメージに合わせた画材選びを工夫する。デジタルとは異なる表現方法を研究し、様々な課題制作に応用できる自由な発想力を身に付ける。	1 前期	45	3		○		○			○	
5	○			グラフィック基礎	各種トレーニング課題を行いながら、様々なデザイン用具の基本的な使い方・デザインの基礎知識を習得し、デザインの魅力や表現する楽しさを体験するとともに、文字情報の扱い方のスキルを身に付ける。	1 前期	45	3		○		○			○	
6	○			基礎デザインⅠ	造形要素の特性を把握し、造形秩序と配色の調和について学ぶ。文字の歴史や基礎知識、書体(フォント)の種類とイメージを広く学びながら、リサーチ力や応用力を身につける。また、演習課題制作を通じて制作物の目的やターゲット層を意識しながら、クライアントワークに挑戦する。	1 前期	45	3		○		○			○	○
7	○			印刷・レイアウト基礎	単色印刷からフルカラー印刷まで、演習課題を通じて文字組とレイアウトの基礎テクニックを習得しながら、ひとつの印刷物が出来上がるまでのワークフローを理解する。	1 前期	45	3		○		○			○	

8	○			DTP演習 I	アプリケーションの特性・基本的な操作方法、デジタルデータの基礎知識や管理の方法を学ぶ。IllustratorとPhotoshopの特性の特徴の理解・役割の把握・連動させた操作など、反復練習でスキルの習得を目指す。	1 前期	45	3		○		○		○					
9	○			Web デザイン I	インターネットとWebサイトの基本知識を学ぶとともに、Illustrator・Photoshopの使い方。およびWebサイトに適した画像パーツ制作の過程を学ぶ。また、HTMLをコーディングして構造・記述ルールの基本やCSS(スタイルシート)の役割と使い方を理解しながら、Webサイトデータを作り上げる。	1 前期	45	3		○		○						○	
10	○			基礎造形 II	平面から立体へ展開しながら、紙という材料の基本的な加工方法や、その特性、紙を使った造形の可能性を学ぶ。素材や資料の研究、アイデアを形にするための積極的な実行力や企画力、的確な計画性などの重要性を理解する。	1 後期	30	2		○		○						○	
11	○			グラフィック演習	前期で身に付けた基礎的表現力や技術力を更に高め、文字情報の扱い方のスキルアップと制作プロセスの自己管理能力向上を目指す。	1 後期	30	2		○		○						○	
12	○			基礎デザイン II	紙面構成や媒体に合わせたフォント選択や文字構成の操作練習。グラフィックデザインにおける記号(単化形成、ピクトグラム、シンボルマーク等)の社会的な役割・必要性や制作プロセスを理解し、演習課題を通じて表現力を強化する。	1 後期	30	2		○		○					○		
13	○			印刷・レイアウト演習	デジタル入稿による制作演習を通じて、文字組とレイアウトの強化を図り、正しい情報の選択とリサーチや取材力を身に付ける。校正記号や入稿プロセスを学習し、適切な入稿用データを作るようにする。	1 後期	30	2		○		○						○	○
14	○			DTP演習 II	IllustratorとPhotoshopの操作とデザイン作業を意識したデータ制作を行う。検定試験合格に向けて基礎知識と技術のスキルアップを目指すとともに、習得したスキルを応用できるようにする。	1 後期	30	2		○		○					○		
15	○			Web デザイン II	デザインの基礎を学び、Photoshopを使ったバナー制作を通じて技術を習得しながら、ターゲットの理解と効果的な訴求方法を考える。Figmaを使用して実践的なWebサイトデザインの技術を身につける。	1 後期	30	2		○		○						○	
16	○			広告デザイン演習 I	感覚的なものも大事にしつつ、基本的なルールを踏まえたうえで、情報の整理やレイアウトの効果を意識して、見る人に働きかける広告物について考察する。また企業連携によるクライアントワークに取り組み、入稿用データの作り方等、実践的なスキルを高める。	1 後期	30	2		○		○						○	

17	○			撮影基礎	一眼レフカメラの基本操作を学ぶとともに、グループワークを通じて自身の役割と責任強みを認識する。生成AIについて、使用する際のメリット・デメリットや基礎的な理解を深めながらレタッチ等を習得。「見る・撮る・創る」のサイクルを身につける。	1 後期	30	2		○		○			○	
18	○			パッケージデザインⅠ	市場に出回っているパッケージにはどのような種類(構造・包装材料・印刷方式等)と機能(情報伝達・商品保護・可搬性等)があるのか学習し、パッケージデザインが消費者に対して果たしている役割について理解する。	1 後期	30	2		○		○			○	
19	○			グラフィック表現 テクニク	企業と消費者をコミュニケーションするアートディレクター・グラフィックデザイナーにとって重要視される「独創性」「着眼点」に対し、「表現」というフィルターを通すことで感性を磨くと共に、各自が秘めている可能性を見つけ出す。	2 前期	45	3		○		○			○	
20	○			インフォメーション デザイン	コトバだけでは伝わりにくい情報を視覚化。複雑な情報を整理・分析し、他社に分かりやすく伝えるための表現方法を学ぶ。また、編集やレイアウトの工夫で、より効果的に伝達する方法を総合的に学ぶ。	2 前期	45	3		○		○			○	
21	○			コミュニケーション デザイン	グラフィックの領域にとどまらず、デザインの多面性・広範性を理解し、社会におけるデザインの意義や価値を主体的に見出すことのできる視点とマインドを育成する。また、多様な関係者と円滑に協働するためのコミュニケーション手法を習得する。	2 前期	45	3		○		○			○	
22	○			DTP演習Ⅲ	制作演習を通じてInDesignの基礎操作を学びながら、マージンや文字組に配慮したレイアウト力を強化する。さらに企画力の向上を図りつつ、現場に即した制作のワークフローを学び身につける。	2 前期	45	3		○		○			○	○
23	○			DTP演習Ⅳ	各種デジタルアプリケーションの応用的使い方、卒業制作等大型作品の入稿用データ制作方法、就職活動に用いる作品ファイルの制作等について学ぶ。	2 前期	45	3		○		○			○	
24	○			WebデザインⅢ	HTMLとCSSそれぞれの役割を正しく理解し、CSS(スタイルシート)を意識した効率的かつ効果的なWebサイト制作手法を身につける。また、Figmaを活用したデザインカンプ制作を通して、Webデザインの設計力と表現力を養う。	2 前期	45	3		○		○			○	
25	○			広告デザイン 演習Ⅱ	課題制作を通じて、広告制作の現場が今必要としている人材を育成していく。広告とは何か?ということを改めてしっかりと理解し、実際の仕事におけるデザイナー・アートディレクターとして制作プロセスを学ぶ。	2 前期	45	3		○		○			○	○

26		○		専門技術 演習Ⅰ	トーン＆マナーを踏まえたアートディレクション、ライティングや演出などワンランク上の撮影テクニックの習得、目的に沿ったブランディングデザイン等、選択制により各分野について専門的に学ぶ。	2 前期	45	3		○		○			○	○
27		○		専門技術 演習Ⅱ	シルクスクリーンの印刷技法、広告媒体制作のみならずイベント開催までのトータルなプランニングのノウハウとテクニック、マーケットリサーチ・企画立案・構造・材料等を総合的に学ぶパッケージデザイン等、選択制により各分野で専門的に学ぶ。	2 前期	45	3		○		○			○	
28	○			進級制作	一年間の学習で身に付けた専攻の専門知識と技術を集大成した作品を制作する。	1 後期	150	10		○		○			○	
29	○			卒業制作	二年間の学習で身に付けた専攻の専門知識と技術を集大成した作品を制作する。	2 後期	300	20		○		○			○	
30	○			英語	義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。	1 前期	15	1	○			○			○	
31	○			一般教養Ⅰ	社会の中でグラフィックデザインがどのような役割を担っているのか、各種事例研究を通じて理解するとともに、アートとデザインの違い、広告制作をはじめとした何らかの情報伝達を行う際に、クリエイターとして留意すべき点等について学ぶ。	1 後期	30	2	○	△		○		○		
32	○			一般教養Ⅱ	社会人として求められる基礎教養・知識を広く学ぶ。就職活動必須ツールの制作、デザイン業界の知識や業界リサーチについて傾向と対策を学ぶ。	2 後期	30	2	○	△		○		○		
33	○			キャリア プランニングⅠ	様々なデザイン業界の職種を研究し、その仕事に対する理解を深める。ビジネス能力検定ジョブパス3級受験に向けた学習を通して、社会人基礎力の向上を図る。また、自分が目指す業界に向けたポートフォリオの制作指導。進路指導と平行して実施する。	1 後期	30	2	○	△		○		○		
34	○			キャリア プランニングⅡ	履歴書・エントリーシート・ポートフォリオ（作品集）等の就職活動必須ツールの準備。筆記試験対策、面接・プレゼンテーション対策など、デザイン業界の採用試験について傾向と対策を学ぶ。	2 前期	45	3	○	△		○		○		

35	○			キャリア プランニング Ⅲ	各業界を知り、企業訪問や研修などを通して、実社会をより深く知る事で仕事を理解し就職活動につなげる。応募企業に評価してもらうためのポートフォリオのレベルアップを図る。	2 後 期	45	3	○	△		○	○		
36	○			キャリア プランニング Ⅳ	自らのキャリアプラン（進路設計）を具体的に推進していくために必要なリサーチ力・プレゼンテーション力等の向上を図ると共に、インターンシップ・企業訪問・面接等の具体的な就職活動に対応できる社会人基礎力を身に付け、希望する業種・職種への就職達成を目指す。	2 後 期	45	3	○	△		○	○		
37	○			業界研究	業界内の職種・組織の構成・採用側が求める人物像等についてリサーチするとともに、各自が希望する業種・職種について理解を深め、就職活動を進めていく上での目標を具体化していく。	2 後 期	30	2	○	△		○	○		
合計				37 科目				120 単位（1,800単位時間）							

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
卒業要件:	各学年の教科目を履修・修得し、卒業制作の審査に合格した者は、第2学年の課程の修了が認められ、卒業が認定される。卒業時必要履修単位数120単位(1,800単位時間)			1学年の学期区分	2 期
履修方法:	必修科目については時間割に準じ、選択科目についてはガイダンス時に配布される資料やシラバスを確認し、担任へ申告後履修する			1学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。